

糖尿病足感染治療最前線 ～米国の実践的臨床ガイドラインとTIME理論～

佐賀大学医学部形成外科 病院講師
菊池 守

糖尿病性足感染は下肢切断の大きな原因の一つであるが、その病態は複雑で治療方針に迷うことも少なくない。本講演では米国感染症学会が作成した「糖尿病足感染の診断治療のための実践的臨床ガイドライン 2012年度版 (IDSA ガイドライン 2012)」と慢性創傷治療の基本となる「TIME 理論」に触れながら糖尿病足感染に対する治療について概説する。

IDSA ガイドライン 2012 は 10 項目に分かれた 44 の推奨文から構成される。米国における診療と現在の日本の保険診療では使用出来る検査、薬剤、治療環境などに違いはあるものの、国際的に使用されることを前提とした標準化された治療ガイドラインとして参考となる部分も多い。血流不全や骨髄炎などが絡み合い診断と治療方針に迷うことも多い糖尿病足感染に対しても、ガイドラインに基づき順序立てて診断、治療を行うことで、良好な結果に導くことが可能となる。

また経過の長い糖尿病足病変治療においては適切なデブリードマンを行い、適切な外用剤、創傷被覆材、閉鎖陰圧療法を適切なタイミングで使用することが重要である。慢性創傷治療における TIME 理論、Wound Bed Preparation といったキーワードについて触れながら実際の臨床における治療の流れを解説する。